

令和2年2月定例会の結果

1 陳情書 2 資料（陳情文書表）

1 陳情書

陳情番号	件名	結果
陳情第1号	公共施設におけるピロティー形式のメリット・デメリットについて検証を望む陳情	不採択
陳情第2号	津波・洪水・台風対策としてシェルターを危険地域の公園や空き地に点在させて設置する事を希望する陳情	不採択
陳情第3号	SDGsの和訳を「持続可能な開発目標」から「持続再生可能な開発目標」に訂正する事を求める陳情	不採択

2 資料（陳情文書表）

陳情第1号

公共施設におけるピロティー形式のメリット・デメリットについて検証を望む陳情

陳情者 山口賢三

〔陳情趣旨〕

今日、地球規模の災害が起こる心配から、国連の提唱する「SDGs」なる開発目標が掲げられ、当市におきましても、この推進をされております。

しかしながら、新しく建設されようとされております計画の中に「ピロティー形式」と言う物がありますが、この方式は「SDGs」にあてはめてクリアーしているのでしょうか？これは大きな疑問です。

SDGsの目標11にあります「住み続けられるまちづくりを」

目標12にあります「つくる責任、つかう責任」とありますが、ピロティー形式は本当に市の公共施設として「安全・安心」で使える方式であるか？「建築工学の賢者」「防災工学の賢者」「風水学の賢者」の日本での最高の皆様に御検証して下さる様、お願いして頂きたく陳情申し上げます。

〔陳情項目〕

1. 公共施設におけるピロティー形式のメリット・デメリットについて検証を望む

陳情第2号

津波・洪水・台風対策としてシェルターを危険地域の公園や空き地に点在させて設置する事を希望する陳情

陳情者 山口賢三

[陳情趣旨]

自然災害はいつ来るか分かりません。しかし、備えは万全を尽くすべきです。現在、当市では、清水港周辺の津波危険地域では、一般のビルやマンションなどの所有者の皆様の協力を得て、「避難ビル」として指定されておりますが、浪漫館などを訪ねて見ますと、出入口は施錠されており防災センターの管理の方にお聞きしましたが、被災時にこのロックが解除されるかは保障出来ないとお話しでした。これでは、あてになりません。そこで、一つの対策として「災害用シェルター」を危険地域の公園や空き地などに点在させて設置し、自力で避難が難しい御老人や障害者の皆様の最後の手段としては如何でしょうか？

謹んで提案申し上げます。

[陳情項目]

1. 減災シェルターを危険地域の公園や空き地に点在させて設置する事を希望する。

陳情第3号

SDGsの和訳を「持続可能な開発目標」から「持続再生可能な開発目標」に訂正する事を求める陳情

陳情者 山口賢三

[陳情趣旨]

今ここに来て、「SDGs」と言うアルファベットが目につきます。その言葉は2015年9月国連サミットで採択された「サステナブル・デベロップメント・ゴールズ」の略称であり、日本語訳で「持続可能な開発目標」と表現されておりますが、私は、この和訳は一つ欠けていると思います。私は30年前から「サステナブル・デベロップメント」と言う言葉を使って来ました。しかし、この和訳は「持続再生可能な」と教えて頂きました。それは、東京の国連大学で行われて来ましたエネルギーシンポジウムで世界各国からお見えになった博士や教授が使われた言葉で、当時、同時通訳をされておりましたのは、NHKの英会話教室などで活躍されておりましたマーシャ・クラッカワーさん（現・聖心女子大学英語英文学科教授）が私達に教えてくれたのは「持続再生可能な」でした。この「再生」が入ると入らないのでは大きなちがひがあります。日本政府が国内に提唱するに「持続可能な開発目標」と和訳されたことは残念な事です。当静岡県においても、この「持続可能な開発目標」として「SDGs」を推進し、企業への呼びかけをされておりますが、ここで、少し考えて、「再生」を付け加えて欲しいと思います。何か一緒だと思われる方もおられるかも知れませんが、これは大きなちがひがあります。

「持続可能」は平行線と言いましょか？直線的に進んで行く事であると思います。これでは、蓄えが終われば、それでおしまいになってしまいます。

「持続再生可能」となると、これは、サイクルになり円運動になります。これには、終わりは無く「エンドレス」になり資源でいえば「リサイクル」と言う事です。たった二文字の言葉ですが、これは重要な事です。

静岡県は大丈夫でしょうか？カラフルなバッチを襟に付け、田辺市長も頑張っておりますが、今、されておられます事で、「SDGs」には程遠い事が目につきます。その最たる物は、「JRのリニア新幹線問題です。」これは重大なミスであると言っても過言では無いと思います。アルプスの地下にトンネルを抜くと言う行為は「神様をも恐れぬ、大変危険な行為」であります。山も水も空気も食物も、何一つ私達人間が作った物はありません。これは「大自然の恵みです。」この「大自然」を我々人類の祖先の皆様は「神様」と敬い、「感謝と畏敬」を持って守り続けて来て下さったから、今日、私達はその恩恵を頂いています。一度壊した物を元に戻す事は難しい事です。「富士山」を「霊峰富士」とか「霊山」と言いますが、正に「神が宿る恐れが多い、尊い山です。これは「南アルプス」も同じです。日本の脊髄のような霊山です。この「SDGs」には17の目標がありますが、日本では、聖徳太子様が制定された「17条憲法」があり日本最初の憲法とも言われておりますが、この中にも私達が学ばなければならない事があります。西洋的には、「モーゼの十戒」があります。これも私達が守らなければならない事が納められています。今、「地球的存亡の危機の時代」を迎え、自然に対して「今、私達がなすべき事」は「神の掟」言い換えれば「法則」にひれ伏して、従う事に尽きると思います。そもそも「モーゼの十戒」は「日本に古い30戒」があり、この中の「10戒」をモーゼが持ち帰ったと「日本の古文献」にあるそうです。今、

JRがやろうとしている事は、「神を冒瀆する行為」であると思います。この建設がもし富士山の地下ならどうでしょうか？「火を噴くでしょう！この南アルプスは水を噴くでしょう！」火と水は神のパワーそのものです。陽と陰で出来ています。

昨年末のNHKスペシャルの放送では、地球的存亡の危機はこの後10年間に対処しなければ、人類の滅亡にもつながるとの警告があり、今すぐ行動に入らなければ間に合わないとも言われておりました。こんな時代にあってどちらかの県知事さんは2027年までに完成しなければ中京地域の大損失であると静岡県を見下した発言がありましたが、このリニア新幹線工事によるトンネル工事は静岡県にとって「百害あって一利なし」です。昔、「狭い日本、そんなに急いで何処へ行く」と言う言葉がありましたが、新幹線の新型車両700Sのスピードがあれば良いでは無いでしょうか？飛行機もあります。リニア新幹線のコースを長野県側へ迂回させ新駅を作れば長野の皆様も喜ぶと思います。少し遅れても良いと思います。超電導の技術は素晴らしい物です。これはリニアモーターだけではありません。まだまだ別の利用技術はあります。日本が「脱原発」をして、今、電源3法による予算を「持続再生可能な開発の為の研究」へ切り換えれば、日本の「吉野さん」のような素晴らしい研究者はきっとすごい技術を生み出してくれると思います。余りにも原子力にお金がつぎ込まれ、新技術の研究者へは、びびる物になっています。今の日本の既成観念では、原子力発電はCO²を排出しないから「地球温暖化の温室効果に無関係」と思っておりますが、これは、大きな勘違いです。世界の「持続再生可能エネルギー」を考える研究者の皆様は、「地球の熱収支」という観点から「地球温暖化」を考えておられます。温暖化の原因は温室効果ガスだけではありません。これは地球に降り注ぐ太陽エネルギーが「地球に吸収される量と反射する量」をたしざんすると、入ってきた太陽エネルギーの量とは一緒であり、プラスマイナス・ゼロとなります。しかし、ここで化石燃料を燃焼させるとCO²が排出され、大気圏へ温室を作ったようになり、温暖化が進む原因になっておりますが、原子力はどうでしょうか？

原子炉で放射性物質が核分裂する時に発生する膨大な熱によりお湯を焼かして蒸気を発生させ、蒸気タービンを回し発電機で電力を生産しています。この発電で出る熱はどうなりますでしょうか？電気エネルギーに変換され消費される時、又熱になります。そして、沸かしたお湯は海に放出されるものと、空中に放出される熱量があります。これらの、核分裂による熱量は太陽エネルギーの熱収支にプラスされてしまいます。これは温室効果ではありませんが、「熱汚染」となり海の中の生態系を狂わせ、イワシや桜えび、ウナギ等々、食物連鎖が狂い、ある物が異常には増え、本当に欲しい物が食べられてしまいます。

そのような現象は、もう現実の物として起きているのでは無いでしょうか？さらに原子力は放射性廃棄物と言う、我々の手には負えない厄介者で、負の遺産となっていて、福島汚染水を薄めて海に流したり、空中へ拡散させたりすれば、日本は世界からパッシングを受けると想います。風評被害どころでは済まされません。先日、来日された「ローマ教皇様」は帰りの飛行機の中で、「原子力発電の技術にはまだ問題があるから、今はやめるべき」とのコメントを発信されました。これは、日本の地上に滞在中は行わず、機上で述べられた事は、世界に向かって発信されたと思います。日本の「SDGs」対策に世界から「化石賞」が授与されましたが、先日、御逝去されました元環境大臣の望月義夫代議士にもきっと「化石賞」が授与されたと思います。平成3年、旧清水市へ200万キロワットの巨大石炭火力発電所を建設するという計画には推進、残念ながら、旧清水市市議会も私の、

「持続再生可能エネルギーの太陽光発電所にして欲しいと言う「請願」はすべて蹴られ、宮城島旧清水市長は「石炭火発以外に清水の活性化は無い」と断言されました。これも「化石賞」でしょうか？あれから 25 年して三保のこの地へ太陽光発電所が完成、三保の松原はユネスコの世界文化遺産に認定されました。私の願は成就されました。これは、「神様のご加護であると感謝しております。石炭火力発電所が稼働していたらユネスコの査定はOKが出たでしょうか？

今、田辺信宏静岡市長のこの「SDGs」への取組状況を見ますと、カッコいい事は言われておりますが、この「清水石炭火力発電所問題」のシチュエーションと良く似ています。リニア新幹線問題での井川方面のJRの工事用道路としての整備に関して、「静岡県」を無視してJRと「契約締結」した事は、単に県知事に失礼な事をしたのでは無く、静岡県民に対して、もっと言うならば、「神」に対して大変な無礼を犯した事になると思います。今から、もしやる事があるとしたら、JRとの契約を「白紙撤回」する事でしょう。それには静岡市はJRに対して「損害賠償」は支払う事になるでしょう。

そして、「全静岡県民」しいては「日本国民」にお詫び、さらに「神様」に「ごんげ」しなければ大変な事になります。

そして、「SDGs」を宣言しながら、実際には環境に配慮するフリをして一般市民をごまかす行為を「グリーンウォッシュ」または「SDGsウォッシュ」と言うそうですが、言行一致でなければ、国内は勿論、国際的な信用も地に落ちてしまいます。

令和 2 年 1 月 7 日 22:00 よりNHKで放送された「クローズアップ現代」のなかで、長野県の中学生在が 6 年前、「おじいさんたちから聞いた、過去の自然災害について調べ、この教訓を生かして欲しいと劇を上演し、その中で歌った「桜づつみ」と言う自作の歌をみんなが「災害の教訓」を忘れ無いよう川の土手にこの歌の歌碑を作りました。しかし、残念な事が起こりました。先の台風 15 号により千曲川が決壊、過去の災害と同じように大洪水に見舞われてしまいました。今、この子達も復興に向けて頑張っているとレポートがありました。なぜ、過去の苦い教訓を生かせ無いのでしょうか？

「SDGs」と言う事に付いて長く述べて参りましたが、これは私の人生の中で学ばせて頂いた「集大成」と言っても過言ではありません。これに、私は「SD大作戦」と命名します。

[陳情項目]

1. 「SDGs」の和訳を「持続再生可能な開発目標」に訂正して下さい。
2. リニア新幹線工事に伴う井川方面の道路工事でのJRとの契約を「白紙撤回」してください。